光村図書ウェブコンテンツのご案内

生徒作品ギャラリー ART BY

光村図書が運営するウェブサイト
「生徒作品ギャラリー ART BY STUDENTS」では、
全国の中学生・高校生の作品を**1200点以上**紹介しています。

ここから
アクセス！

https://artby.jp



トップ画面



検索結果画面

作品詳細画面



詳細検索画面

キーワード、テーマ、描画材などで生徒作品を検索できる！

全作品に作者の言葉を掲載！

教授用資料 今、求められる美術の授業

発 行 者：吉田直樹
発 行 所：光村図書出版株式会社
〒141-867 東京都品川区上大崎 2-19-9
電話：03-3493-2111（代表）
印　　刷：梅田印刷株式会社
デザイン：渋井史生［PANKEY inc.］
美　　術：ワタナベケンイチ
撮　　影：鈴木俊介、竹達照夫

光村図書

光村図書ウェブサイト
光村図書 検索

今、求められる
美術の授業

光村図書

［座談会］
美術の力を深める授業とは？

更科結希 北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭
鈴木雅之 宮城県柴田郡大河原町立金ケ瀬中学校教頭
宣 昌大 大阪教育大学附属天王寺中学校教諭
田中真二朗 秋田県大仙市立中仙中学校教諭
堤 祥晃 滋賀県高島市立安曇川中学校教諭

［実践紹介］
わたしの授業プラン

教授用資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

［座談会］

美術の力を深める授業とは？

デジタル環境の急激な発展や、端末の普及などで、
学校現場は大きく変わろうとしています。
そういった状況の中で、美術の授業には今、
何が求められているのでしょうか。
魅力的な実践をされている５人の先生方にお聞きしました。



堤 祥晃（つつみ よしあき）　滋賀県高島市立 安曇川（あどがわ）中学校教諭
更科結希（さらしな ゆき）　北海道教育大学附属 釧路（くしろ）義務教育学校後期課程教諭
田中真二朗（たなか しんじろう）　秋田県大仙（だいせん）市立 中仙（なかせん）中学校教諭
鈴木雅之（すずき まさゆき）　宮城県柴田郡（しばたぐん）大河原町（おおかわらまち）立 金ケ瀬（かながせ）中学校教頭
宣 昌大（せん ちゃんで）　大阪教育大学附属 天王寺（てんのうじ）中学校教諭

聞き手：光村図書出版 編集部　撮影：鈴木俊介

学習の過程の中にこそ、美術の学びがある。

―― 田中



田中真二朗 たなか・しんじろう
秋田県生まれ。秋田県大仙市立中仙中学校教諭。宮城教育大学大学院修了後、宮城県私立高校非常勤講師、秋田県公立中学校教諭を経て、2022年より現職。2012年、博報賞受賞。著書に『中学校美術 題材＆授業プラン36』（明治図書　2019年）。

学びの過程に目を向けたい

――最初に、先生方が現場で感じられている課題について、お話しください。

堤　ほとんどの学校で、美術の先生は一校に一人という状況です。するとどうしても、前任の先生が行っていた題材を、残っている作品だけを頼りに引き継ぐことが多くなりがちです。特に新任の先生は自分で新しい題材を考える余裕がなく、前任の先生の授業にならって指導計画を立てることが多い気がします。

鈴木　宮城県でも新任の若い先生が増えています。私が出会ってきた若い先生はみんな優秀で、吸収力もあるし、とても勉強熱心です。ただ、校内に教えてくれる先生がいない。せっかく才能のある若い先生が増えてきたのだから、美術の授業について学べる機会があれば、いい先生がもっと増えて、すごくいい状況になると感じます。

更科　北海道の場合はもっと深刻で、免許外の先生が教えざるをえない地域もあります。そういった先生も、前任の先生の授業を踏襲することが多いと思います。

　地域の新しい先生と話すことがあるのですが、どのように生徒たちに考えさせるのかというところに、難を感じているようです。完成作品のイメージはあるのですが、その過程でどう教えていくかに難しさを感じているという話はよく聞きます。

宣　非常勤の先生が相談に来られることがあるのですが、話を聞いていると、みなさん優秀で、きちんと考えている。でも話題の中心になるのは、作業の手順とか、そういうことです。手順のスライドなんかもとても上手につくるのですが、美術でどんな力をつけてほしいかという本質の部分に迫りきれていないと感じることも多いです。手順が示されれば、生徒たちは、自分の思いとは関係なく、手順どおりに作品をつくるようになってしまいます。

田中　作品の完成だけを目標に制作するような授業がまだ多いと感じています。学習の過程の中にこそ美術の学びがあるという認識がもっと浸透すればいいなと思っています。

「みんなの工夫」を活用する

――そういった課題に対して、どんなことができるでしょうか。

宣　例えば、教科書を活用する。光村図書の教科書には「みんなの工夫」（※1）というのがありますよね。

堤「みんなの工夫」のいいところは、完成作品だけではなく、生徒たちがどんなことを考えて作品をつくっているのかが見えること。これを見ると、新任や免許外の先生でも授業のイメージがしやすいですよね。



※1「みんなの工夫」（光村図書『美術1』P.24）

更科　生徒たちの、こうしたいからこういう方法を選んだというのがわかりやすく示されています。生徒たちも参考にしやすいだろうと思います。

鈴木　いろいろなパターンがありますよね。目標に向かってどんどん進めていく生徒もいれば、途中で方向転換して、考え方を変える生徒もいる。私は、そこまでのドラマこそ、見る必要があると思っています。そのドラマがあって、完成したものも生きてくる。どっちを取るとかじゃなくて、過程と完成の両方を大事にしたいですよね。

田中「みんなの工夫」には、主題があって、主題を表すためにどういう工夫をしたかがしっかり載っています。「みんなの工夫」を見れば、生徒は自分だったらどうするかを考え、教師はそれに伴走してくような授業が自然にできると思います。





［座談会］
美術の力を
深める
授業とは？



端末を有効に使えているか

――GIGAスクール構想で端末が普及してからしばらくたちました。現状はいかがでしょうか。

更科　美術の授業とうまく絡められないという声をよく聞きます。使う場面がわからないと、いつもどおりの紙のワークシートを配ることになります。

堤　環境的に使いづらいという声もあります。例えば、生徒指導上の問題で使用に制約があったり、セキュリティーが厳しくて必要なアプリが入れられなかったり。私の周辺では、使い方がわからないという先生はあまりいませんが、活用例を紹介すると、「うちにはこのアプリは入ってへんわ」と（笑）。

田中「探究的な学び」という言葉がキーワードとしてよく出てくるようになりましたが、美術の授業でも、自分の制作過程を端末で記録するデジタルポートフォリオはとても有効です。自分の学びを振り返り、俯瞰（ふかん）して見ることができるようになります。

鈴木　生徒たちは自然にそれをやっていますよね。クロッキー帳にアイデアスケッチをして、うまくできたら端末で撮る。端末の方が描きやすい生徒もいて、そんな子は端末で描いて、そのまま保存します。自由度が上がったから、それぞれが得意な分野でクロッキー帳として使いこなしている感じがあります。

写真の授業も、１回行えば、あとは休み時間に勝手に撮影して、いい作品ができればそれを見せにきてくれます。機種やアプリの問題もありますが、保存ができて、撮影できれば、生徒たちは使いこなします。

田中「他者参照」が瞬間的にできるのもいいですよね。他の人が考えていること、やっていることが、画面の中で全て見られる。今までだったら、制作の途中に、友達の作品を見て回る時間をつくったり、グループで話し合う時間を設けたりしていました。今はそれがいらなくなって、自由に見て、友達のアイデアを取り入れている。学びがすごく深まります。

更科　表現のツールとしても使えるので、取り組む題材の幅も広がりました。映像にも取り組みやすくなった。全員が同じ端末をもっているからこそ、できることが増えてきました。

宣　どう使うかは生徒に委ねられるとよいですよね。紙にペンで描くのがいいという生徒もいるし、端末にペンタブで描く生徒もいる。写真を撮って、それを加工する生徒もいる。いろいろな手段を許容することが大事です。小学校で端末が使われ始めて数年が経ち、すでに使い慣れている生徒が増えているのですから、中学校でも自由度は高くしておきたい。

田中　まさに個別最適な学びですよね。個別最適化は、教師が決めるのではなく、生徒に選ばせたい。選べるような環境をつくるのが教師の役目かなと思います。↙



協働的な学びを進める

田中　協働的な学びについてはどうですか。協働的につくり、深めていくような実践はされていますか。

更科　必要感のある協働にしたいと思っています。端末を活用することで、考えてほしい課題と、生徒たちにとっての必要感を接続したい。生徒どうしが関わり合いをもてるような端末の活用方法に挑戦しています。

最近は、複数の端末の場面が連動して見える映像作品を、協働で制作する授業をしています。端末を並べて置くと、それらの端末の画面を人や物が行き来して見えるような作品です。そういう作品だと、教師がグループをつくりなさいと言わなくても、自然に話し合いがスタートします。

――協働的な学びというキーワードで、他にはいかがですか。

田中　鑑賞は基本的に協働的な学びです。端末のホワイトボードアプリを使って、自分の見方や考えをどんどん書き込んで、グループで鑑賞を深めていくというのは、全国でよく行われていると思います。↗

私は先日、「地域に新しい美術館をつくる」という設定で「キュレーターになったつもりで、美術館に必要な作品を収集しよう」という授業を行いました。グループごとに「どんな美術館にしたいか」「そのためにどんな作品があるとよいか」を話し合い、Google Arts & Culture（※2）などを活用して世界中の美術館から作品画像を集め、最終的には仮想空間に展示できるアプリ（※3）を使って、仮想の美術館をつくりました。生徒たちは、「地域にお年寄りが多いから、心の和むような作品を集めよう」などとテーマを決め、ホワイトボードアプリにグループで意見を書き込んでいきました。とても盛り上がりましたよ。

堤　特にデザインの授業で、協働的な学びが効果的だという実感があります。デザインには客観性が必要で、自分がいいと思っていても、相手がいいと思わなかったら伝わらない。

ピクトグラムをつくる題材では、最初につくったものをグループで共有して改善点を出し合います。その後でもう一度作品をつくる。ビフォー・アフターで、作品が二つできて、それらを見比べて振り返りをさせます。自分一人だと、最初の作品ができてそれで終わりです。でも、友達の客観的な意見が入ると、もう一度、考え直してみるようになります。

――端末の活用で、協働的な学びは進めやすくなりましたか。

田中　さまざまな意見をすぐに共有できるのがいいですね。以前だと恥ずかしくて発言できなかったような生徒が、端末だとどんどん自分の意見を書き込んでくるようになって、多様な意見や考えに触れることができるようになりました。これは端末あってのことだと思います。

堤　友達の意見の中から、いいと思った意見を選んで、それにコメントを加える。生徒どうしでどんどん言葉がつながっていく。もし端末がなかったら、全員分のワークシートを、全員が教室中を回って見るとか、大変な作業になりますよね。

更科　今は、Canva（※4）というアプリのホワイトボード機能を使って、つくった作品を他県の中学校と共有しています。

――生徒の反応はどうですか。

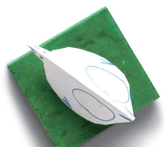
更科　すごく反応がいいんです。アップされている作品に生徒たちがコメントする。感想だけでなく、質問やアドバイスを、言葉を選びつつ書き込んでいます。一所懸命やっていますよ。

田中　双方向というのがとてもいいですね。まさにデジタル・シティズンシップ教育（※5）です。匿名で好き勝手に書くのではなく、コメントをするときのマナーを学校教育の中できちんと教えていくことが大事ですね。



協働的な学びは、生徒にとって必要感のあるものにしたい。

―― 更科



完成するまでのドラマがあってこそ、作品が生きてくる。

―― 鈴木



鈴木雅之　すずき･まさゆき

東京都生まれ。宮城県柴田郡大河原町立金ケ瀬中学校教頭。東北生活文化大学生活美術科卒業後、1995年より宮城県公立中学校、宮城県立中高一貫校、宮城県美術館などで勤務し、2023年より現職。現在教頭職4年目。

更科結希　さらしな･ゆき

北海道生まれ。北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。著書に『中学校美術の「学び合い」題材＆授業プラン』（明治図書　2023年）。

※2　Google Arts & Culture：Googleが世界中の美術館や施設と協力し、提供しているウェブサービス。たくさんの美術作品の高精細画像などを閲覧できる。
※3　仮想空間に展示できるアプリ：この題材ではSharePointスペースを使用。
※4　Canva：オンラインのデザインツール。ホワイトボード機能を使うと、画像の共有や、グループでの制作などにも活用できる。
※5　デジタル・シティズンシップ教育：デジタルツールの使い方を正しく理解し、デジタル社会のよき担い手になるための教育のこと。

［座談会］
美術の力を
深める
授業とは？

美術の授業の作品は、コミュニケーションツールでもある。
——堤



堤 祥晃 つつみ・よしあき
滋賀県生まれ。滋賀県高島市立安曇川中学校教諭。滋賀大学教育学部卒業後、2001年から滋賀県公立中学校の教諭を務め、2018年4月より現職。「第55回 教育美術・佐武賞」佳作賞、「第70回 読売教育賞」優秀賞を受賞。滋賀大学大学院教育学研究科修了。

生活の中に美術の力を広げる

——「今、求められている美術の授業」ということで、最後に一言ずつお願いします。

鈴木　週に1〜2時間の授業でできることは限られています。なので、そこからどう広げていくか。生徒たちは、文化祭や行事なんかでも、端末を使って美術的な活動をどんどんやっている。その土台となる力がつくような授業を行うのも大事だと思っています。

　私がずっと取り組んでいるのは、作品を校内に掲示して、そこで休み時間や放課後に意見交換できるようにすること。「校内美術館」の運営というのかな。それはこれからも続けていきたい。授業以外の場所で美術を考える一つのきっかけになるからです。

宣 昌大 そん・ちゃんで
大阪府生まれ。大阪教育大学附属天王寺中学校教諭。京都精華大学芸術学部造形学科卒業後、家具職人、大阪府公立中学校教諭を経て、2022年より現職。



堤　最近、美術の授業でつくる作品は、ただ単に作品ではなく、それを通したコミュニケーションツールなのではないかと思うようになっています。作品を通して、いろいろな場所の人たちと交流ができるのが美術の強みだし、それは教師どうし、生徒どうしでもそう。さらに地域とか、いろいろな人とつながっていける。そういった、つながりを重視した授業をこれからはやっていくべきだと思っています。それは社会における美術の価値を高めることにもつながると思います。

田中　私も似たようなことを感じています。学校教育の美術という枠はありますが、美術的な考え方、クリエイティビティは、どんな場所でも必要とされるものです。美術を狭い枠で考えずに、身につけた力を広い意味で発揮できる生徒を育てたいと思っています。もちろんそのために絵を描くとか、物をつくるということをやっているのですが、それだけではない美術的な考え方をお互いに出し合えるような授業を考えていきたいです。

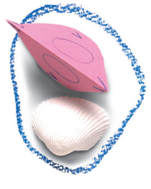
更科　これまでは教師が課題を提示していましたが、生活の中で生徒たちが課題に気づき、その課題をテーマに取り組んでいけるようにできたらいいなと思っています。もう少し自由度を高くしていくことも必要で、解決の過程で、生徒たちが助け合いながら、最終的には、教室の外に出ていくような授業を目ざしたいと思っています。

宣　生徒たちがやっていることに教師が驚くような授業の仕掛けをつくっていきたいです。

　先日、「学校の中庭の風を感じて作品に表す」という題材を実施したのですが、まず、生徒に「中庭を通り抜ける風の通り道を探してみよう」と呼びかけました。すると、ビニール袋やビニールひもを手に走ったり、立ち止まったりしている。そうやって風の通り道を探すんです。その授業を見ていた数学の先生が、「僕だったら風の単位を生徒に考えさせたい」と言い出した。「1ビュー」とか、「1フワリ」とか（笑）。そうやってみんなが問いを探求する授業づくりって、ワクワクする。そういうことが提案できたらいいなと思っています。学校の中で、それが提案しやすいのが美術という教科です。他教科も参加して、一緒に楽しんでくれて、生徒たちも、もちろん楽しむ。そういう、学校、文化、風土に関わるような授業をこれからやっていきたいと思っています。

——本日はありがとうございました。

ワクワクする提案は、美術の授業だからこそできる。
——宣





［実践紹介］わたしの授業プラン

座談会では、今、求められる美術の授業の姿として、さまざまなキーワードが挙がりました。
それらを実現するためのとっておきの授業プランを紹介してもらいました。



堤 祥晃 先生の授業プラン

身近な風景に思いを重ねて（1年） 全8時間／絵や彫刻など

題材のねらい
身近な風景を見つめ直して描く題材です。見慣れた風景を新しい視点で捉え直したり、目にしたときの気持ちを効果的に表す方法を考えたりすることで、発想や構想の力を育みたいと考えています。描画材は主にポスターカラーですが、色鉛筆やペン、スポンジや綿棒、布などの用具も用意しておき、生徒がさまざまな表現に挑戦できるようにしています。

準備するもの
教師 —— A3判のイラストボード、色鉛筆、ペン、スポンジ、綿棒、布など
生徒 —— タブレット端末、鉛筆、ポスターカラー

時	学習活動
1	［鑑賞する］ ●生徒作品を集めたウェブサイト「ART BY STUDENTS」（※）で全国の中学生が描いた風景画を鑑賞し、お気に入りの作品を選ぶ。選んだ理由と、自分の作品に取り入れたいところをワークシートにまとめる。
2〜3	［発想し、構想を練る］ ●学校の周辺を取材し、気に入った風景をタブレットで撮影する。気に入った理由をもとに、どのように表したいかイメージを膨らませる。 ●端末で撮影した写真をトリミングしたり、色調を変化させたりして、見え方や印象の変化を確かめながらイメージに合う構図や色を考える。
4〜7	［制作する］ ●風景から受けた印象や思いを、表現方法を工夫して表す。
8	［鑑賞する］ ●相互に作品を鑑賞して友達の制作意図や工夫を知り、お互いの作品のよさを認め合う。



全国の中学生が描いた風景画を鑑賞し、自分ならどんなふうに風景を表すか、イメージを膨らませる。



普段目にする風景を、いろいろな視点から撮影してみる。



ふわふわした雲の感じを表現するために、絵の具を付けたスポンジで叩くようにして雲を表現した。

［生徒作品］ 青空と電線　イラストボード、ポスターカラー、色鉛筆



羊のような雲と電線が印象的で、もう一度同じ空を見たいと思いながら描いた。電線は、くっきりと力強く表現するために、空を描き終わってから最後に色鉛筆で仕上げた。

※ART BY STUDENTS　全国の生徒作品を集めた光村図書のウェブサイト。詳しくは本冊子の裏表紙をご覧ください。

［実践紹介］
私の
授業プラン



鈴木雅之 先生の授業プラン

抽象を撮る（2年） 全3時間／絵や彫刻など

題材のねらい

本題材では、「写真を撮る」という方法で抽象的な表現を試みます。抽象的な表現というと「描く」題材を思い浮かべがちですが、「描く」ことをしなくても、身の回りには無数の抽象的なモチーフが存在しています。美しい形やおもしろい形、印象的な形などを身近な場所に見つけること、また、完成作品を鑑賞し、新しい発見をすることで、抽象表現についての感性を育むことをねらっています。

準備するもの

教師 —— 作品を映すモニターなど
生徒 —— タブレット端末

時	学習活動
1〜2	［導入］ ●クレーやカンディンスキーなどの抽象画を鑑賞する。 ●グルスキー（※）などの作品を鑑賞し、作品から受ける印象を話し合う。 ［撮影する］ ●校舎の中やその周辺から抽象的な形を見つけて、タブレット端末で撮影する。  抽象的な形を探すことで、普段は何気なく通り過ぎてしまうような場所をじっくりと観察することができる。
3	［鑑賞する］ ●グループで相互に鑑賞し、友達の作品から受けた印象をキーワードにして出し合う。 ●友達から挙がったキーワードを参考にして、自分の作品に題名をつける。



鮮やかな色の組み合わせ、円の形の繰り返しに心ひかれ、ペットボトルキャップの回収ボックスを撮影した。



木製の掃除用具かけに複数の傷があることを発見した生徒。撮影した写真を見返すと、傷の直線と木目の曲線の対比など、さまざまなことに気がついた。



校舎中庭につり下げられている鎖を下から見上げるような視点で撮影した。地面すれすれでタブレットを構えるなど、視点を変えることで、新たな発見がある。

［生徒作品］



ポップコーン
友達から挙がった「鮮やか」「アメリカン」「軽い感じ」というキーワードから題名をつけた。



傷



つながり

※アンドレアス・グルスキー
写真家。1995年ドイツ生まれ。複数の写真をつなぎ合わせ、デジタル加工技術を駆使して独特な画面構成の巨大な作品制作している。



田中真二朗 先生の授業プラン

和菓子の魅力を伝えよう（2年） 全4時間／デザインや工芸など

題材のねらい

「和菓子店の店主兼デザイナーとして、商品を告知するポスターをつくる」という設定で、前時までに制作した和菓子の魅力を伝えるデザインをします。実際の和菓子店のポスターを鑑賞し、自分のお店のロゴマークも考えさせることで、生徒の気持ちを盛り上げました。伝える目的やターゲットを明確に設定することで、それらに応じた配色や構成などをじっくりと考えさせることをねらいました。

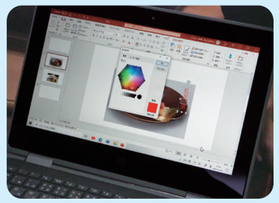
準備するもの

教師 —— 作品を映すモニターなど
生徒 —— タブレット端末、前時で制作した和菓子の作品

時	学習活動
1	［導入］ ●実際の和菓子店のポスターや過去の生徒作品を鑑賞し、気づいたことを話し合う。 ●ポスターの制作に必要なこととして、「ポスターをつくる５か条」を確認する。 **ポスターをつくる５か条** **① 目的は何？** **② ターゲットは誰？** **③ 主役は何？** **④ イメージに合った配色か？** **⑤ 文字や写真の配置（構成）は適切か？** ［発想し、構想を練る］ ●自身がデザインした和菓子を見つめ直し、ターゲットやコンセプトを明確にする。
2〜3	［制作する］ ●和菓子が魅力的に見えるよう、背景や懐紙の色、アングルなどを工夫して撮影する。 ●プレゼンテーションソフトを用いて、文字の形、配色、バランス、全体のイメージなどを工夫してポスターを制作する。 ●「ポスターをつくる５か条」をもとにグループで批評し合ってから、作品を仕上げる。
4	［鑑賞する］ ●自分の制作意図を発表する。また、友達がどのような意図で制作したのかも知る。 ●ポスターの制作を通じて感じたことや、友達の発表を聞いて気づいたことなどをワークシートにまとめる。



生徒に示したスライド。和菓子店のポスターや過去の生徒作品例から、デザインに必要な要素を見いだしていく。



制作にはタブレット端末を用いる。修正が容易なので、背景や文字の色、書体などを試行錯誤することができる。

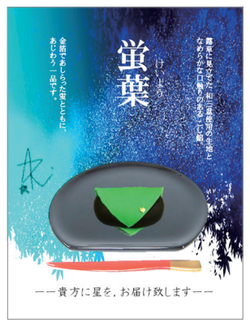


筆ペンで書いた文字をスキャンして使う生徒。

［生徒作品］



かまくら饅頭
和菓子の色が生きるよう、紫と金色の紙を敷いて撮影した写真を用いた。冬の夜をイメージし、背景は黒一色にした。



蛍葉
七夕の時期を表現するため背景を星空にした。和菓子の色が生きるよう、文字の色はシンプルに仕上げた。

［実践紹介］
私の
授業プラン



更科結希 先生の授業プラン

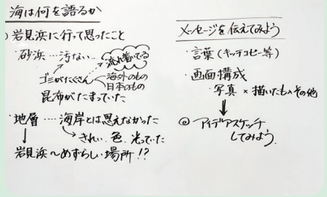
海は何を語るか（2年） 全6時間／デザインや工芸など

題材のねらい

多くの人々をターゲットに伝えたいことをポスターにまとめ、表現していく授業です。この授業は、学校の近くにある海岸への取材から始めました。この海岸は長い歴史によってつくられた地層の見える美しい岩場、はるかに広がる太平洋の景色が魅力なのですが、足元の砂浜は漂着物によって汚れてしまっています。生徒はこの場所から感じ取ったことをもとに、主題を生み出しました。

準備するもの

教師 —— B4判の画用紙、コピー用紙、プリンター、ペン、色鉛筆など
生徒 —— タブレット端末、鉛筆、アクリル

時	学習活動
1	［近所の海岸を取材する］ ●見たり、触ったりして感じ取ったことをメモしたり、海岸の様子を写真に撮ったりして記録する。
2	［発想し、構想を練る］ ●海岸に行って感じたことをクラス全体で共有する。  板書の例 ●伝えたいメッセージを考え、構図などの構想を練り、アイデアスケッチをする。
3〜5	［制作する］ ●色や文字の形、材料などを工夫して制作する。 ●取材で撮影した写真や、プリントアウトした文字をコラージュするなど、タブレット端末の機能も生かす。
6	［鑑賞する］ ●制作意図を発表する。 ●友達の発表を聞き、テーマを表すための表現の工夫を知る。



現地で五感を働かせて取材することで、表現したい主題が生まれてくる。岩場を観察したり、漂着物を撮影したりして、表現のための素材を集める。



撮影した写真を見返して、伝えたいメッセージを考える生徒。



文字はタブレット端末で打ち込んで印刷できることを伝え、限られた時間内にさまざまな書体を検討できるようにした。この生徒は、色紙を文字の形に切り抜いて貼りつけた。

［生徒作品］



ゴミの海
紙、色鉛筆、コラージュ
身近な海の現状が伝わりやすいよう、取材時に撮影した写真をコラージュした。



宣昌大 先生の授業プラン

パッケージで伝える大阪の魅力（2年） 全11時間／デザインや工芸など

題材のねらい

地域の魅力を伝えるお土産のパッケージデザインを通して、生活や社会の中の美術の働きについての見方や感じ方を深める題材です。さまざまなパッケージを鑑賞した後、毎年秋に発表される「都道府県魅力度ランキング（※）」で大阪府の順位を知らせます。生徒たちには上位の都道府県へのライバル意識が生まれ、「大阪のよさを伝えたい！」という思いをもってデザインに取り組むことができます。

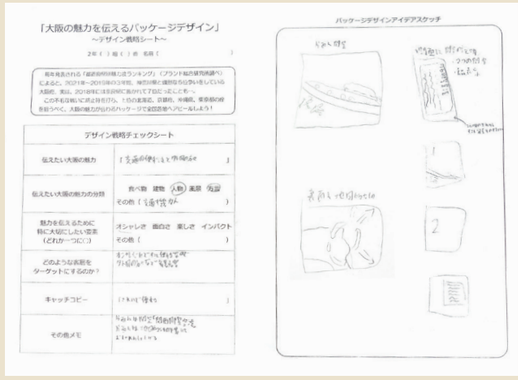
準備するもの

教師 —— 全国のお土産のパッケージ、パッケージの型紙（8種類程度）、ハサミ、カッター、カッティングマット、紙、色鉛筆など
生徒 —— タブレット端末、鉛筆、アクリル

時	学習活動
1〜3	［鑑賞する］ ●全国のお土産のパッケージを鑑賞し、工夫されているポイントを話し合う。 ●さまざまなパッケージの展開図を学ぶ。
4	［発想し、構想を練る］ ●大阪の「都道府県魅力度ランキング（※）」の順位を確認する。 ●大阪の魅力をレポートにまとめ、パッケージを通して多くの人に伝えたいテーマを選ぶ。 ●視認性、単純化、強調など、デザインをする上での知識を確認する。 ●アイデアスケッチをする。
5〜10	［制作する］ ●ボール紙などを用いて、パッケージを制作する。
11	［鑑賞する］ ●相互鑑賞を行い、友達の制作意図や工夫を知る。



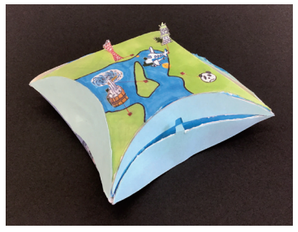
さまざまな形のパッケージを見て、形や色にどんな工夫がされているか考える。



ワークシート。伝えたい大阪の魅力や大切にしたい要素、ターゲットなどをまとめる。

※都道府県魅力度ランキング
ブランド総合研究所が行っているインターネット調査。各地域に対して魅力度など全89項目の設問を設け、地域のブランド力を、消費者が各地域に抱く「魅力」として数値化して「魅力度」を算出している。

［生徒作品］



関西各地の力も借りて！ 関西国際空港
紙、アクリル
関西国際空港の便利さを伝えるため、空港から移動できる関西各地の名品や名所も表した。



大阪に恋するフォーチュンクッキー
紙、ペン
大阪弁をテーマにした。話し言葉のイメージからフキダシの形を発想し、大阪弁のイメージを明るい色で表した。